

新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

このたび、下記の検査項目を新たに受託開始いたしますので、ご利用いただきたくご案内いたします。

当社におきましては皆様のご要望に幅広くお応えすべく研鑽を重ねてまいりますので、今後とも引き続きお引き立てのほどよろしくお願い申し上げます。

敬白

記

■ 実施日 2018年6月18日(月) ご依頼分より

■ 新規項目内容一覧

項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査 方法	基準値 (単位)	備考
5750 2	IDH1/2遺伝子解析 (グリオーマ) 8C570-0000-070-848	組織 250mg	ARR (r)	凍結	12~16		ダイレクト シーケンス法		重 下記参照 &ユ

本検査は神経膠腫（グリオーマ）における遺伝子変異である、IDH1 R132およびIDH2 R172を解析しています。急性骨髄性白血病（AML）患者でみられるIDH2の遺伝子変異は測定できませんのでご注意ください。

他項目との重複依頼は避けてください。

本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。

● IDH1/2遺伝子解析（グリオーマ）

神経膠腫のIDH1遺伝子のコドン132、IDH2遺伝子のコドン172の変異を解析します。

IDH1/2は、クエン酸回路にてイソクエン酸と α -ケトグルタル酸を相互変換する酸化還元酵素であり、突然変異（IDH1遺伝子のコドン132、IDH2遺伝子のコドン172）により、 α -ケトグルタル酸をD-2-ヒドロキシグルタル酸に変換します。この野生型のIDHでは存在しないD-2-ヒドロキシグルタル酸が、がん化を引き起こすといわれています。

神経膠腫（グリオーマ）は、脳の神経細胞を支える神経膠細胞から生じる悪性腫瘍の総称です。神経膠腫のうち、特に星細胞腫、乏突起神経膠腫では、IDH1/2遺伝子の点突然変異が高頻度に認められることが知られています。

2016年にWHOの脳腫瘍診断体系が改訂され、神経膠腫に関しては従来の組織学（形態学）的分類（第4版, 2007年）中心から、遺伝子異常に基づいた分類（改訂第4版, 2016年）へと変化しました。日本でも2018年に改訂された脳腫瘍取扱い規約（第4版）に、IDH1/2遺伝子解析を含む診断アルゴリズムが掲載されています。

本検査は神経膠腫の診断において、今後必須の検査となることが期待されます。

▼疾患との関連

神経膠腫（グリオーマ）

▼関連する主な検査項目

del (1) 短腕欠失
del (19) 長腕欠失

▼検査要項

検査項目名	IDH1/2遺伝子解析（グリオーマ）
項目コードNo.	5750 2
検体量	組織 250 mg
容器	ARR (r) 滅菌ポリスピッツ
保存方法	必ず凍結保存してください
所要日数	12~16 日
検査方法	ダイレクトシーケンス法
基準値	
検査実施料	
判断料	
備考	<p>重</p> <p>本検査は神経膠腫（グリオーマ）における遺伝子変異である、IDH1 R132およびIDH2 R172を解析しています。急性骨髄性白血病（AML）患者でみられるIDH2の遺伝子変異は測定できませんのでご注意ください。</p> <p>他項目との重複依頼は避けてください。</p> <p>本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。</p> <p style="text-align: right;">&G</p>

●参考文献

Arita H, et al : Brain Tumor Pathol 32 (1) : 22~30, 2015. （検査方法参考文献）

Komori T : Neurol Med Chir (Tokyo) 57 (7) : 301~311, 2017. （臨床的意義参考文献）